



# 朝一小だより

活気があふれ、心が潤い、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadai.shou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

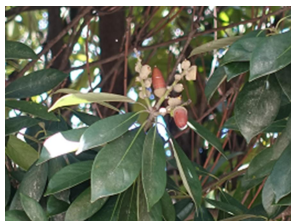
- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和5年11月1日

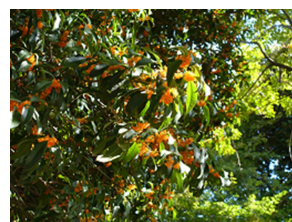
児童数 584名



## スポーツと学校

校長 金子 二郎

日によっては未だ半袖の出番があるものの、観測史上最多の「夏日」を記録した暑さも影を潜め、秋が駆け足でやってきているようです。校地の内外を問わず自然に恵まれた一小では、その美しさを学習に取り入れています。朝晩の冷え込みも秋本番となったためか、体調を崩す児童も少なくないようです。保護者や地域の皆様におかれましても、お体には十分にお気を付けいただければと存じます。



さて、まさに「スポーツの秋」、陸上競技、サッカー、バレーボールとスポーツイベントが目白押しで



す。テレビ観戦で睡眠不足の方も多いかと存じます。ラグビーもワールドカップ2023 フランス大会が開催されました。JAPANはベスト8に残れませんでした。4年間の成果を示しました。以前にも紹介しましたがラグビーには人間形成に資する特徴として「品位、情熱、結束、規律、尊重」というコアバリューがあり5つ

目の尊重は最も優先すべきものとされています。種目の別を問わず、どのような試合でも勝てば嬉しいし負ければ悔しいものです。しかしノーサイドの笛が吹かれた瞬間に敵味方はなくなり、それまで体を張って競い合った2つのチームが一つの輪となる場面を幾度となく目にしました。個人種目とは異なったチームスポーツの大きな特徴の一つかと思えます。学校でも集団生活を通し児童が社会性を身に付けることを大切にしています。ところで、作家の橘玲さんは著書「不愉快なことには理由がある」(集英社文庫)で次のように述べています。「ヒトは社会的な動物であり、集団が



成立するためには、『仲間』と『敵』を区別する境界が必要です。この境界は、誰かを仲間に入れたり、



仲間はずれにしたりすることで絶えず確認されます。こうした境界確認行動によって子どもたちは『共同体』をつくっていくのですが、このゲームがいまは『いじめ』と呼ばれるのです。」ラグビーには、国籍を持っていなくても国の代表として活躍することができるという特色があります。国籍という壁を越えて『仲間』のために体を張って戦う中で、一人一人の選手が持ち味を最大限に発揮する

ことでチーム力を最大化することができます。チームを維持するために区別することが前提にはなってはいません。ネット社会が発達し、顔を突き合わせた人間関係も変化しつつあります。しかし、人と人とのつながりは幸せをもたらすものと信じます。そのためにも互いの違いを認め、さらにそれを活かすことが、自分の成長として集団の質的向上をもたらすという発想、言い換えれば「共に生きる」という意識を幼い頃から培うことが、今こそ求められているのではと感じています。私たち大人が



社会の変化に目を向けた上で、子供たちがチームの一員として幸せを感じチームに貢献したいという気持ちを高めることができるようになるためにはどうしたらよいか、真剣に考えなければならぬと思います。

あれが僕たちのさがしている青い鳥なんだ。僕たちは、ずいぶん遠くまでさがしにいったけど、ほんとうはいつもここにいたんだ。(モリス・メテリソク)